

J-26

上中里二丁目における孤立都市下町の避難動線と日常回遊の統合計画 商店街・飲み屋街機能の再生を通じた地域活性化と防災の両立

**Integrated planning of evacuation routes and daily circulation in an isolated urban downtown area in Kaminakazato
Achieving both regional revitalization and disaster prevention through the revitalization of shopping and drinking districts**

佐藤信治¹, ○星野輝太²
Shinji Sato¹, Kota Hoshino²

Downtown urban areas feature historic shopping districts and drinking districts scattered throughout, creating spaces bustling with people daily. These areas can also play a crucial role as evacuation routes during disasters. However, in some areas, evacuation routes are inadequately developed, leading to situations where people become isolated. This proposal aims to create new demand for evacuation routes by designing them as spaces usable in daily life, while also establishing new emergency evacuation routes in these isolated areas.

1. はじめに

都市下町には、歴史ある商店街や飲み屋街が点在し、日常的に多くの人々が行き交う空間となっている。こうした地域は、災害時の避難経路としても重要な役割を果たす場合がある。しかし一部の地域では、避難動線が十分に整備されておらず、孤立する状況が生じている。本提案では、こうした孤立した土地に緊急時の避難動線を新たに配置するとともに、日常的に利用できる空間として設計することで、避難動線に新たな需要を創出することを目的とする。

2. 計画背景

日本の都市下町は、歴史ある住宅地と商業地が混在する一方、道路網が狭く再開発にも制約があるため、土地利用や回遊性が十分でない場合がある。特に東京都北区上中里二丁目のような孤立地域では、駅や主要道路に近接していても周辺道路や歩行者動線に限られ、日常利用者の流れが偏っている。この状況は、防災や生活利便性の面で注意を要する。



Figure1. Evacuation Route[1]

3. 基本計画

3-1. 計画敷地

本計画では、東京都北区上中里二丁目を計画敷地とする。上中里二丁目は線路に囲まれた地形で、周囲との連続性が低く、都市空間として孤立している。このため、地域内の既存避難経路は限られており、地震などの災害発生時には迅速かつ安全に避難することが困難であると考えられる。加えて、敷地内外には老朽化した建物や密集住宅が多く、災害時の被害が拡大しやすい環境である。これらの特性により、災害時の安全性を確保するためには、新たな避難経路の形成が不可欠である。



Figure 2. Aerial Photograph[2]

3-2. 基本方針

上中里二丁目には、かつて上中銀座商店街や梶原銀座通りなど、地域の生活や交流を支える商業施設が存在していた。しかし、上中里中央商店会は2005年に解散され、上中銀座商店街の標識も撤去されるなど、地域の商業活動は著しく衰退している。このため、地域の社会的活力や住民の生活利便性は低下しており、上中里駅

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.

2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.

の利用者数にも影響を及ぼしている。2023年度のデータによれば、上中里駅の1日あたりの乗降客数は約6,000人と、近隣の駅と比較しても低い水準である。商店街や飲み屋街の衰退は、地域の社会的つながりの希薄化や、防災上の避難経路不足といった構造的課題を生じさせる。これらの課題に対応するためには、地域の活性化と防災機能の強化を同時に進めることが求められる。本では、上中里二丁目の地域特性に基づき、商業機能と避難機能を統合した複合施設および回廊の計画を提案することで、地域活性化と災害時の安全性向上の両立を図る。

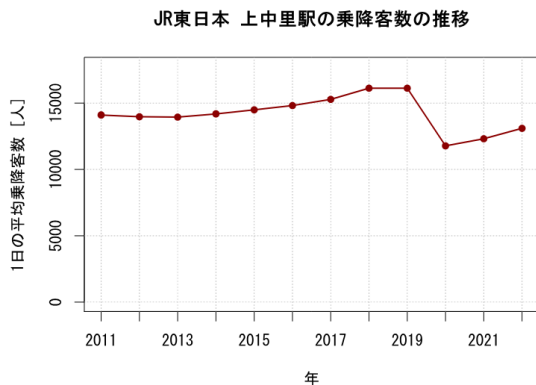


Figure 3. Time series of passenger numbers at JR East Kaminakazato Station [3]

4. 建築計画

4-1. 避難動線計画

本提案において最も重要となるのは、上中里二丁目における避難動線の 신설である。計画地は線路に囲まれ、既存の避難経路は極めて限定されており、災害時には安全な避難が困難であるため、孤立した地域を外部と結ぶ新たな避難経路の形成が必要とされる。

新設する回廊型避難動線は、梶原商店街との連続性を確保するルートとともに、上中里駅および尾久駅を直接結ぶ経路を併設する構成とする。こうすることで、災害時には複数の効率的な退避ルートが確保され、平常時には駅間移動や商業・交流動線として機能する都市的回廊が実現される。

4-2. 過去の賑わいの再生

新設される回廊は、災害時の避難動線と日常的な回遊路の両立を目的として計画する。回廊は上中里駅南口から敷地内に入り、谷田橋通りを経由して、かつて賑わいを見せていた梶原商店街や上中銀座商店街の跡地と接続される。沿道には、上中銀座商店街の過去の賑わ

いを参考に再生的に活用した低層の商業・飲食施設を配置し、平常時には買い物や交流の場として人々が自然に集う空間とする。さらに、敷地北端まで延伸し尾久駅への出口を設けることで、上中里駅と尾久駅を直接結ぶ回廊となり、孤立しがちな地域と主要駅を効率的に接続することが可能となる。この回廊により、災害時には地域内のどこからでも迅速かつ安全に避難でき、平常時には駅間移動や商業・交流活動の回遊路として機能する都市的基盤が形成される。



Figure 4. The former Kaminaka Ginza[4]

4-3. 主要施設と収容人数

本提案の回廊沿道には、避難機能と日常的な利用を両立させる複合施設を配置する。従来の避難経路が非常時のみの利用にとどまるのに対し、本提案では沿道に商業や交流機能を持たせ、平常時には人が集う場として活用しつつ、かつて賑わいを見せた商店街や飲み屋街の機能を再生させる。これにより、災害時には安全な退避路として、日常時には地域の賑わいを育む回廊を目指す。

4-4. 対象となる人々

地域住民、駅利用者、防災関係者

4-5. 想定人数

約3,000人

4-6. 想定稼働日

年中無休

4-7. 主要機能

避難機能、商業・交流機能、滞留・広場空間

5. 参考文献

[1] 避難動線と防災都市計画

<https://www.city.tokyo.lg.jp/bousai/hinan.html>

[2] Google Earth

<https://x.gd/BoO0x>

[3] 上中里駅（JR 東日本）の乗降客数の統計

https://statresearch.jp/traffic/train/stations/passengers_station_133_1318.html